

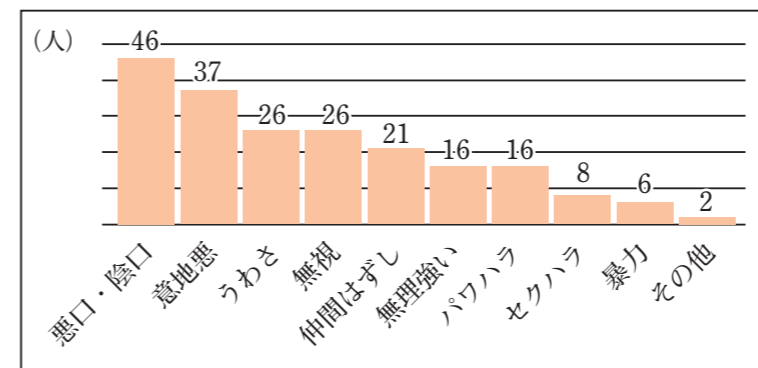
町人権教育研修会（9月27日）より

今回から、広く一般町民の方々にもご参加いただき、総勢七十七名で町人権研修会が行われました。何気ない日常の中起こる出来事で、私たちは傷ついたり傷つけられたりしています。心の持ち方や自分の在り方を見返して、よい契機となりました。

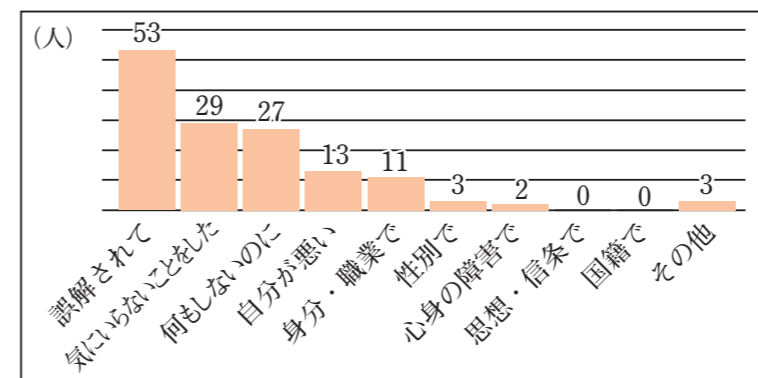
事前のアンケート結果から

参加できない方も含め、95名からご回答いただきました。

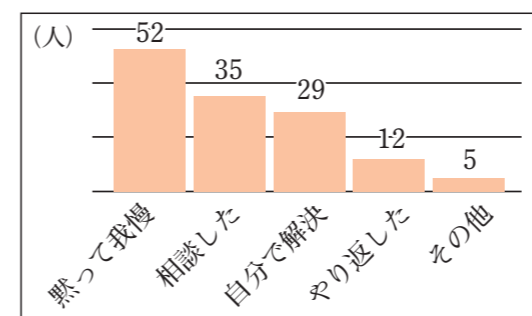
問1 今までにされた悲しいことやいやなこと



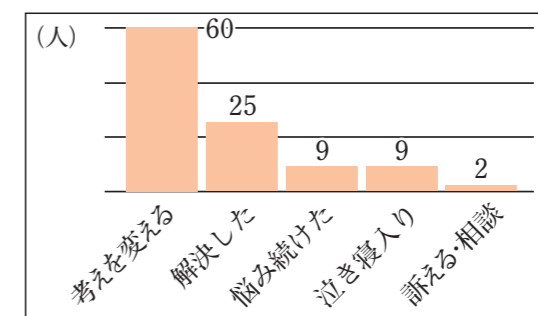
問2 どうして、そのようなことをされたと思いますか



問3 そのような時どう対処しましたか



問4 その結果、どうなりましたか



ほとんどの人が、悪口・陰口、意地悪、うわさ、無視や仲間はずしなど経験していることが分かります。（問1グラフ）そして誰もがそれに堪え、乗り越えて来ています。

（問3、4グラフ）

気持ちを伝えたり相談したりと、解決に積極的に乗り出した人もいますが、多くの人は自分の考えを変えることで乗り切ってきているようです。しかし、中にはじっと我慢し泣き寝入りしたり悩み続けたりと、未解決のままの場合も少なくありません。日常に起きるこれらの事柄ですが、未解決のままいつまでも一人の人間を苦しめていく場合は、生きる力を奪う「差別やいじめ」といった大きなことにつながっていきそうです。

他人の痛みを自分の痛みとして人と関わることができたら、悲しい思いをする人も確実に少なくなるはずですが、私たちは自分のこと以外は見えにくく、意識的あるいは無意識に人を傷つけている場合も多いのかもしれない。

参会者の声 ～ 感想と今後に向けて ～

感想

- ・人権問題が多数あり、自分でも知らないうちに差別していることに気づかされた。
- ・日常の様々なところに、差別・いじめは生まれうるということがよくわかった。
- ・こちらに相手を傷つけるつもりがなくとも、受け手の判断でいじめや差別につながることをわかった。
- ・私たちは複雑な人間関係の中で生活していて、相手の気持ちになることのむずかしさを改めて感じた。
- ・自分がどの立場にもなりうると思うと、自分の生活を見直したいと思った。
- ・自分自身の心の在り方が一番問われるのかもしれない。
- ・いじめの問題から中学生の挨拶のことが話題になった。
- ・挨拶から始まる人との関係づくりが大切だ。
- ・地域、家族のコミュニケーション力が大切になる。
- ・普段考える機会のほとんどない人権について考える時間をいただき、貴重な体験となった。
- ・このような会で、人権について考え合うことは、今、本当に必要だと思う。
- ・それぞれの経験が語られる場になっていた。テーマがありそこへの思いを語るのもよいが、「いじめ」「差別」「人権」という大きな枠の中で話せたので、「おおらかに生きる」「あなたはあなたでいいんだよ」「わからないことを聞けることが自立」そんな大変参考になる話を聞くことができた。
- ・民間の方も含めた幅広い環境にいる人たちで話し合いできたことは、非常によかった。それぞれ異なる立場にある人たちだからこそ、あらゆる視点からの話し合いができたのだと思う。



今後に向けて

- ・今日の研修会の内容結果を持ち帰って、各々の立場で今後どう反映させていくかが問題となる。恐らく毎年参加した者だけの一人きりの完結で終わりそうである。
- ・ここでの話し合いがどう生かされるかは難しいことだと思う。より多くの人に参加し、いろいろな人の意見を聞く場となればと思う。
- ・限られた人たちの研修会でなく、多くの人たちの参加を望みたい。

塩澤 秀彦主事のお話

町ぐるみ、各々の立場で一同に会して人権教育を進めているところは稀で、貴重な機会だと思います。

アンケート結果を見ると、悪口、陰口、うわさという順になっていて、誰もが人からの言葉に敏感に反応しているということだと思います。「どう対処したか」の問いで、「がまんする」が多かったのはショックでした。考えていかなければならないことだと思います。

対処の仕方スキルも必要ですが、日常の意思疎通が人間関係を築く基になり、問題の予防につながります。相手があるいは誰かが嬉しくなるようなことを日頃からしているでしょうか。

下諏訪町は挨拶がすばらしいというので、是非それを続けてほしいです。子どもたちに手本となる姿を、私たちが示していきたいです。

